

西国街道とは

古代から中世まで、京都と大宰府を結ぶ唯一の大路だった「山陽道」。江戸時代になると、江戸と「西国」九州への経路をつなぐ重要な道路として発展し、五街道（東海道・中山道・日光道・奥州道・甲州道）に次ぐ脇街道と位置付けられました。江戸時代では、西国街道・西国往還・西国路などと呼ばれていましたが、現在では「西国街道」と呼ぶのが一般的です。

この街道では、寛永10年（1633年）の幕府巡見使の視察や、寛永12年（1635年）の参勤交代制度の確立などを契機として各地で街道の整備が行われ、街道沿いには宿駅や一里塚などが設けられました。参勤交代や幕府の要人、一般の人々など多くの人やモノが行き交い、それぞれの地域は発展していきました。

街道が通る広島広域都市圏の10市町※には、それぞれ様々な歴史的な見どころがあります。このマップでは西国街道沿いの見どころを紹介していますので、ぜひマップ片手に街道を横断し、その歴史に触れてみてください。

※広島市、竹原市、三原市、大竹市、東広島市、廿日市市、府中町、海田町、岩国市、和木町

広島城下絵屏風 部分（広島城所蔵）

西国街道



お問い合わせ

“西国街道”まち起し協議会事務局（広島市企画総務局政策企画部広域都市圏推進課内）
広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 TEL:082-504-2017 FAX:082-504-2029